

令和6年7月26日
資料提供

問い合わせ先
環境管理課 企画指導班
東山、野中（内線 2682）
（直通）073-441-2688

（仮称）新白馬風力発電事業に係る環境影響評価方法書について、和歌山県環境影響評価審査会（第3回）を開催します

【審査会概要】

- 1 日時：令和6年8月2日（金）13:30～
- 2 場所：和歌山県データ利活用推進センター
（和歌山市東蔵前丁3番17 南海和歌山市駅ビル5階）
- 3 内容：（仮称）新白馬風力発電事業に係る環境影響評価方法書

■報道取材等について

- ・審査会は、公開で行いますが、撮影は冒頭（議事に入る）までとします。

【事業の概要】

事業の名称	（仮称）新白馬風力発電事業
事業者	JR東日本エネルギー開発株式会社 代表取締役社長 松本 義弘 東京都千代田区神田須田町 1-25 JR神田万世橋ビル15階
事業の内容	風力（陸上）
対象事業実施区域	御坊市、広川町、日高町及び日高川町
事業の規模	風力発電所出力： 最大 60,000kW 風力発電機の基数： 3,000kW～4,300kW 程度※を 14 基～17 基 ※単機出力が総発電出力最大 60,000kW を下回るよう出力制限する。

(参考1) 環境影響評価(環境アセスメント)制度について

環境影響評価制度は、法令で定める大規模事業を行うに当たり、事業が及ぼす環境影響を事業者自らが調査、予測、評価し、その結果を公表して住民、地方公共団体などから意見を聴き、それらを反映して環境影響の回避・低減を図る制度です。

環境影響評価法の手続きは、大きく分けて配慮書、方法書、準備書、評価書、報告書の5段階があり、各図書の内容は次のとおりです。

図書	内容
配慮書	事業の位置・規模等の検討段階において、環境保全のために適正な配慮をしなければならない事項について検討を行い、その結果をまとめた図書
方法書【今回】	どのような項目について、どのような方法で環境アセスメントを実施していくのかという計画を示したもの
事業者による調査・予測・評価(以下、「調査等」という。)の実施	
準備書	調査等を実施した結果を示し、環境の保全に関する事業者自らの考え方を取りまとめたもの
評価書	事業者が準備書に対する環境保全の見地からの意見を有する者、都道府県知事等からの意見の内容について検討し、必要に応じて準備書の内容を修正したもの
個別法の許認可等での審査・事業の実施	
報告書	工事中に実施した事後調査やそれにより判明した環境状況に応じて講ずる環境保全対策、重要な環境に対して行う効果の不確実な環境保全対策の状況について、工事終了後にまとめたもの

(参考2) 和歌山県環境影響評価審査会

環境影響評価において、事業者が各段階で作成した図書について、知事が意見を述べるに当たり、専門的な見地から学識者の意見を聴くため設置(根拠:和歌山県環境影響評価条例第36条)

氏名	役職名等	専門分野
入野 俊夫	和歌山大学システム工学部教授	騒音・振動
江種 伸之	和歌山大学システム工学部教授	水質・底質・土壌・地下水
岡田 和久	和歌山県森林インストラクター会会長	森林保全
此松 昌彦	和歌山大学教育学部教授	地形・地質
芝田 史仁	和歌山信愛女子短期大学生生活文化学科教授	ほ乳類
下村 通誉	京都大学瀬戸臨海実験所所長	海生生物
竹中 規訓	大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科教授	環境化学(大気化学)
谷 奈々	(一財)和歌山社会経済研究所研究委員	文化振興・歴史文化産業遺産の保存と活用
土永 知子	南方熊楠顕彰館学術研究員	植物
永瀬 節治	和歌山大学観光学部准教授	景観
中野 加都子	元甲南女子大学人間科学部教授	廃棄物
中村 進	(公財)日本野鳥の会和歌山県支部副支部長	鳥類
(会長) 濱田 學昭	元和歌山大学システム工学部教授	総括・都市計画
松野 茂富	和歌山県立自然博物館主査学芸員	昆虫
(副会長) 吉田 登	和歌山大学システム工学部教授	環境配慮・温室効果ガス